

血液培養が偽陽性になった検体において、*Mycoplasma* 属の血流感染がどの程度関与しているかに関する研究

1. 研究の対象

2025 年 7 月～2026 年 6 月にかけて大阪大学医学部附属病院において血液培養を採取され、その血液培養が偽陽性と判定された検体。

2. 研究目的・方法

血液培養は菌血症、即ち本来無菌であるはずの血液中に菌体が存在するかどうかを確認する検査として用いられ、感染症としての治療期間の決定や、感染部位の推定を行う上で、非常に重要な検査です。しかし菌血症を疑って採取された血液培養の中には、最終的に菌体が検出されず、血液培養が陰性と判断されることも多いのが実情です。陰性と判断された血液培養の中には、血液培養に用いられる検査機器が陽性シグナルを検出したにも拘わらず、培養液の目視を行っても菌体が鏡検されず、かつ一般的な培地を用いた培養においても菌体が検出されないため、偽陽性と判断されるものも存在します。血液培養が偽陽性となる原因としては、白血球細胞が血液培養ボトル内に混入してしまうなどの事例が指摘されてはいますが、実際には偽陽性と判定された原因が判然としないことも少なくありません。

一方で目視により偽陽性と一度は判断されたものの、後に実際には真の陽性だったという血液培養もあります。そうした事例の中には、鏡検しても菌体が視認できない *Mycoplasma* 属が関与していると報告されたものも存在します。しかし *Mycoplasma* 属の発育には特別な培地（PPL0 培地）を必要とすることが多く、実際には *Mycoplasma* 属が関与しているかどうか確認されることはほとんどありませんでした。

この研究では、そうした偽陽性と判定された血液培養ボトルを用い、鏡検しても指摘困難な *Mycoplasma* 属が血流感染症を起こしていたかどうかを、PPL0 培地を用いて確かめることを目的としています、

研究期間：研究機関の長の実施許可日～3.5 年（2029 年 3 月ごろまでを予定）

利用又は提供を開始する予定日：2025 年 7 月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

・偽陽性と判断された血液培養検体:PPL0 培地を用いて *Mycoplasma* 属の関与があるかどうかを検討する予定です。

・偽陽性と判断された患者さんの情報:治療中の病気の情報やその他検査データなどを用いて、どのような方で *Mycoplasma* 属が菌血症を起こしやすいのか、その予後はどうかを検討する予定です。

4. 外部への試料・情報の提供

特に予定していません。

5. 研究組織

（利用する者の範囲）

大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 教授 忽那 賢志

大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学 小山 峻

大阪大学大学院医学系研究科 変革的感染制御開発システム 寄付講座 寄付講座講師
山本 剛

大阪大学医学部附属病院 医療技術部 主任臨床検査技師 上田 安希子

大阪大学大学院医学研究科 変革的ヒト検体解析学寄附講座 特任研究員 瀬瀬 律子

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2

06-6879-5070

大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座 小山 峻

研究責任者：

大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座 忽那 賢志

研究代表者：

大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座 忽那 賢志